



TITLE:

同好會報

AUTHOR(S):

CITATION:

同好會報. 天界 1927, 7(76): 306-308

ISSUE DATE:

1927-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161122>

RIGHT:

同 好 會 報

五月總會報告

本年度の、定期總會は、昨年岡山に於ける總會の節、話題に上りし神戸にて、開かる事となり若葉の風香る五月七日、八日、九日の三日間に亘りて、我が國天文學史上由緒あり神戸諏訪山金星台山下の、兵庫縣教育會館を本會場となし、市内數ヶ所に於て、神戸、甲南兩支部幹旋のもとに七日、午後より盛大に開催せられたり。

五月七日、第一日。

時恰も、偶然と云ふか、市内某所に時の展覽會の開かるありて、本會總會の意を深からしめたり。集り來る講習者、其の數百六十數名を算するに到る。斯の日午後二時山本博士には京都より着神。直ちに、本會場に臨まれ、休みの息ふ暇なく、壇上の人となりて、徐に、天文學の第一歩に話頭を進めらる。古代バビロン天文學より起りて、支那古代天文學、埃及、ギリシヤ等の天文學に擴り、天文學史觀、更に進一步進みて、現代の天文學に加へて、時の觀念等、天文學の主要を講述せらる。されば集り聽く者、咽々の鳴を、潜めて耳をそばだつ事、三時間有餘、夕暮迫りて、話題は明日の問題を残して終る。此の意義ある第一日を天何故に憎みてか空に白、黒の雲は亂走し、中村氏の不着と共に、志氣失踪せしめんとす…。

時は後れて夕靄の正に消へんとする頃車を借りて中村氏着神されしかば、一度失せし志氣は倍すと謂も、客舎に到る頃には、天馬空を馳りて其の暴威を示して衰へず、實地觀測の時近づけど、憂ふ雲は晴やらず、此の人々を慰むの術もなく、亭に在る山本博士には客窓に凭れられて感慨無量……只、只、み空の雲を睜めらるけれども、刻は、一刻と過ぎて最早や、此の日を絶望に、宣せんとする間一髪、西天の一角に、月明きして、黒龍雲を呼びて飛び去れば、中村氏スハと、起上りて本會場へ趨らる。

時は遅く十時に近ければ、只熱心餘り有る者のみ十餘名を残して他の者は歸り路の歩みに上つてゐる。然れども土星の漸く、美姿を中天に現はす時、家路より再び馳せ來る者もありて、二十餘名となり、「三時級」五台、「四時」屈折、「六時半」や「三時」の反對鏡等の前に立塞ぎ、夜漸く深更に入りて夢の旅路に急ぐ。今宵の通俗講演には上田理學士午後六時半着神を遅しと道場校に參られ、七時より五百餘名の衆に天空の廣さを、聽く者の驚異の裡に、九時を過ぐる頃に終る。第一日終り。

第二日。

朝の光は昨日に引換へ、赫々として太陽、我等の上に祝福を祈る如く、本日の總會を盛大ならしむべく想あらしむ、午前九時より山本博士、昨日に引續きて數方言、天空の旅路に歩を進めらるゝ事三時間餘、正午の合圖も忘るゝの熱心さを以て、一言半句も聞き洩らさじと皆々聽き入る。

午後の總會通りたれば、明日の楽しみに話を打切られ、午後二時より同好會總會兼ねて、晚餐會場へと、臨まるかくて總會は午後四時より加納町三の目之出樓上に開かる。總會時間を前して、山本博士は本年の天文學上大問題たるウインネツチ彗星に就きて詳細なる報告と注意あり、終りに最近地球學上の問題となれる。地球の形及び自轉法則の如何なるものなるかに就きて話さる。言葉終る頃には京より荒木、竹田兩氏見へ、午後五時より總會に入る、山本博士座長となりて一言の挨拶ありて、直ちに會議に入る。

荒木學士、會計竹田氏、病氣の故にて代理され、會の一般報告(會計)あり、年々會の發展しつつあるを話さる、次ぎに

永野氏、倉敷天文台、昨年度業績報告あり、次いで

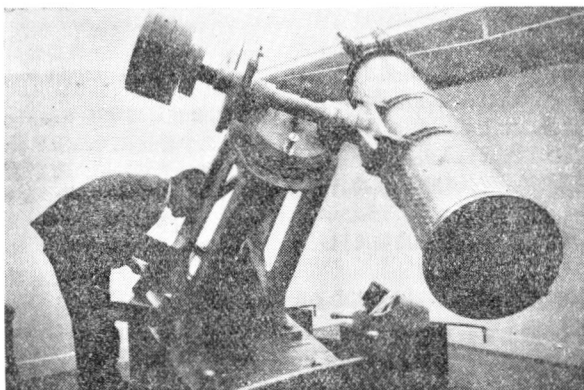
山本博士、會の事業經過並びに發行書籍、併せて天文年鑑の事に就き今までの経緯報告ありて、晚餐會を開く。終りて再度會議に入り、會名、各々條の問題を議す。

會に會長を置く事とし、同好會々名は現在通り、又、第五條、第七條、第八條中に改正を見る。終りて會長公選の結果、山本博士を會長に、上田理學士を副會長に推薦する事となる。此の會議終らずして、山本博士は講演時間逼迫の爲、橘校へ、中村氏は本會場へ、相前後して出て行かれ、荒木、竹田學士も終りて歸洛せらる。

橘校にては山本博士「土星の話」を五百の聴者に燈を使用しつゝ、輪の美さより、衛星の美を、二時間に亘りて講話せらる。本會場にては、中村氏を中心に、三十名に餘る實地觀測表の指導に、小横嘉藤津田諸氏並に支部員懸命なり。水野のみは、此星座案内に専念せらる。かくて十二時頃に及びて、第二日も終る。斯の日こそは天昨日に引換へて、我れ等に幸福を與へ此の會の意義を深からしめたり。

第三日、微風に包まれて第三日は、午前九時より水野氏、明親小學校千餘名の兒童にギリシヤ神話より、話題を進められ十二時に終る。零時よりは、第一神港商業に於て竹田學士、六百名の生徒に、星の話を、一時間半に亘りて講話され、終る。本會場に於ては、山本博士最終の天文學講習あり(午後二時)。前日來の疑問は此の日に解決せられ、時餘りて屈折及反射望遠鏡に就いての大觀を教へらる。愈天空の旅の最後の幕を閉ぢしは午後六時なりき。是より先、午後五時より神戸校にては、水野氏「宇宙の驚異」なる映畫の前案内講演をされ、夜に入りて活動寫眞「宇宙の驚異」は二時間を費して映寫され、九時半に終る。觀者者一千五百餘名、宇宙の廣大無邊なるに驚きて歸る。此の時を同じうして鐘紡にては、中村氏、月世界の美しさを、幻燈によりて一つ、一つ、細かく説明あり、月の美を科學的にも美なるものとなし、九時に終る。集る者三百餘名、斯に本會の總會を閉ぢる事となれば天我れに與へし天候を雨と變じて今日までの講話の意味を腦裡に浸したり。(神戸支部河内記す)

倉敷十二時半反射望遠鏡



倉敷天文臺通信

○第六回公開日、三月五日宮原教授「赤道儀の話」をなし、終つて若干の天體を觀測した。

○第七回公開日、三月十九日水野主事は「三月の天について」講演した。

○第八回公開日、四月二日會員奥田毅氏は「渦狀星雲について」講演した。

○第九回公開日、四月十六日水野幹事は「月の話」と「四月の天」について講演した。毎回の公開日には聴衆が次第に増加して、遠く汽車で團體を作つて來會され

る方もある。

○二月の參觀人、二十一日岡山縣英田郡橋宗村黒田護氏外二十名

二十五日岡山縣女子師範學校教諭松下順太氏外三十二名

二十六日、岡山縣御津郡馬屋下實業補習學校兒子利道氏外十九名。

○三月中の參觀人、四日岡山縣立農事試驗場橋本又一郎氏外十八名。

五日、岡山縣都農郡早島町鹽津農事改良研究會入谷善次氏外十五名。

九日、自治研究會講習會土谷幸治氏外四十名。

十日、岡山縣師範學校教諭佐藤重功氏外本科第五學年生一百二名。

十四日、藤田組高崎農場秋山吟助氏外七名。

淺口郡玉島町横溝保三郎氏。

十五日、倉敷高等女學校小田保太郎氏外八十名。

十八日、岡山縣小田郡宇戸村青年團一木義一氏外十一名。

十九日、廣島縣御調郡三原小學校訓導山崎晴美氏外六十六名。

同縣芦品郡府中商工補習學校教員外三十名。

二十日、兵庫縣佐用郡平福農業補習學校松本茂氏外六名。

二十七日、岡山縣小田郡今井村婦人會小守數野氏外二十七名。

倉敷町森江要平氏外八名。

下關市梅光女學院長廣津藤吉氏、同人妻慰子氏、

福岡縣九州大學助教授小島均氏同人妻君子氏、

門司市本町鶴原誠藏氏、同人娘愛子氏

岡山支部通信

○水野幹事の上京、水野幹事は三月二十四日上京、四月六日歸岡された。その間三十日には三鷹村東京天文臺を訪ひ、四月一日には山本博士を東京驛に出迎へ、三日は東京支部茶話會に列席、夜分の天文講演會を聴講された。

○農學士木村德蔵氏の來岡、四月六日木村學士は支部を訪問され、倉敷天文臺に

ついて種々の件を尋ねられた。

○宮原幹事送別會、宮原幹事御渡英について、有志相集り送別小宴を、四月十八日午後五時佐々岡で催した。

同氏は二十六日午前十一時五分岡山發列車で郡里廣島に歸られ、五月四日門司から鹿島丸に乗船せられる筈である。

○天文講演會、輜重兵第十一大隊長小島大佐の御幹旋によつて、四月二十三日香川縣善通寺高等女學校で、天文講演會が催され、水野幹事は「趣味の天文」と題し講演をなした後で、折から輝ける金星と若干の天體を観測し、熱心家は土星の現はれるのを待つて観測した、同女學校長は三吋望遠鏡を是非購入して、同地方に天文の趣味の普及する様努力せられるさうだ。

1. 水野幹事の上神、水野幹事は五月八日神戸で開かれた、天文同好會繪會に出席、夜分は兵庫縣教育會館で、天體觀測者の爲めに、實地について「星座」の説明をした。五月九日は明親小學校で「北極星を見出す方法」の題下に講話し、夜分神戸小學校で「天文學の應用方面」について講演し、「天界の驚異」なる活動寫眞を観て歸宅された。

2. 天體觀測會、十七日岡山實業專修學校(指導者會員岡崎猪一氏)十六日平野中佐宅、二十日支部で二重星觀測、三十一日3. 例會、十五日岡山市立商業學校で例會を開催し、水野幹事は「本年の天文學界」について講演し、一同連れだつて倉敷天文臺を參觀した。

4. 平松誠一翁、翁は先頃から病氣の由であつたから、二十九日水野幹事は見舞に早島の寓居を訪れたところ、病氣は全快されてゐた。本年八十七歳の高齢に達せられた翁と夕刻迄天文談をなし、庭瀬町の會員坪井近三氏宅で實地觀望の上夜半歸宅。